

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立殿馬場中学校夜間学級
校長 新田 義政

令和4年度 重点目標

- ◎「初心忘るべからず」「継続は力なり」の啓発
- ◎生きる力と学ぶ喜びを支える全人的な教育の推進
- ◎充実した義務教育の保証をめざす

「確かな学び」の現状

入学当初、高齢者を中心とした日本人などの生徒については、日本語を話すことはできるが文字を読むことができない方が在籍している。また新渡日を中心とした外国にルーツを持つ生徒は、日本語を話すことができない。まずは日本語の基礎を習得し、日常生活や仕事が順調に行えるようにしている。また、日本語の習得だけに満足することなく、日本語(国語)以外の教科に対しても関心・意欲を持ち、義務教育で必要な学びに積極的に取り組み、より充実した日々の生活を送れるよう、生徒をサポートしている。

「豊かな心・健やかな体」の現状

本校夜間学級には現在、日本を含め14の国・地域にルーツを持つ生徒が集まっている。また本校の生徒は、戦後の混乱期に義務教育を満足に受けることができなかった人、差別を受けてきた人、DVの被害にあった人、事情があって渡日し日本語習得を必要とする人、就学年齢時に不登校等で義務教育を形式卒業している既卒生など、諸般の事情を抱えている。このような環境の中で多文化共生を推進し、相互を認め理解することによって、相手の立場を大切にす心、大きな視野でものごとをとらえる観点、そして自尊感情を育む教育活動を展開している。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～9月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	
確かな学び	総合的な学力	多文化共生の環境の中で、また学校生活の中で日本の歴史や文化を学ぶことによって、より広い視野を持った生徒を育成する。	●各行事を通じて、生徒それぞれの母国のアイデンティティーに関連した事象を学び、多文化共生のための視野を広げる。 授業や総合的な学習の中で、生徒それぞれの母国のことに触れる内容を盛り込む。	個々の生徒の学力状況、生活状況、歩んできた人生や生き様、渡日の経緯などによって、生徒一人ひとりへの対応が全く異なるため、一定の判断基準(評価のものさし)を設定することは本校夜間学級の現状にはそぐわない。最終的には	年間を通じて取り組んだ内容や、左記の基準による評価(数値ではなく各教科等担当者からの文書による絶対評価)を、年度末に「あゆみ」(夜間学級独自の通知票)に記載し、各生徒に配付する。	通期	「個別最適な学び」を提供するため、そのことを例年よりも意識した年間指導計画を各教科担当者が作成し、担当クラスや9月からの新入生の状況を踏まえて、必要な軌道修正をかけている。各教科の授業展開の中で、「多文化共生」を意識した内容を盛り込んでいるため、相互理解が徐々に進み、生徒が安心して通うことのできる雰囲気が醸成されつつある。	◎	校内行事や近畿夜間中学校生徒会連合会主催の三大行事や授業での取り組みの中で、各生徒が母国のアイデンティティーに関連したことや、他者の文化を理解し、互いに受容することのできる教育活動を展開することができた。
	基礎学力の保障	最低限、社会を生き抜くための基礎学力を確実に形成する。また進学を希望する生徒には、大阪府公立高校選抜に向けた学習指導を、個別に対応する	●担当する生徒が内容理解に一步でも近づけるよう、繰り返し丁寧な指導を行う。とくに新渡日生への日本語指導の個別対応の充実を図る。 クラス内で学力差が生じるため、各生徒に応じた教材を使用したり、クラスの変更を促したりする。 進学希望者への課外補習や、限られた選択肢の中で生徒に適した進路選択をサポートする。	1. 社会を生き抜くための「生きる力」を習得する。 2. 多文化共生の中で相互理解し、自己と他者が相互に「支え、支えられる」存在であることを認識・実践する。 3. 多くの生徒は義務教育が受けられなかったことによって、自尊感情を失いかけていた。本校夜間学級に通うことにより、自尊感情を取り戻し、育む。これらのことが、生徒が義務教育を終え、卒業するまでに身につけることができればと考えている。 生徒は在籍期間がまちまちであるため、一年間のスパンでの判断基準は設定できない。各生徒が在籍中に上記のことを積み重ね卒業することによってはじめて教職員の成果として評価されるものであると考えている。				○	生徒一人一人に必要な個別対応や、進学希望者への学習面・入学後の学校生活等を見据えた指導を、全教職員が何らかの形でかわわり、粘り強く丁寧な指導を行い、個々の生徒が一定の充実感を得られる教育活動を展開することができた。また、全国夜間中学校研究会大会において GIGA スクール構想による「一人一台端末」を活用した英語科の授業実践を発表した。今後、校内で他の教科でも活用できるようにしていきたい。
豊かな心・健やかな体	社会性の形成	戦争等による義務教育未修了者の存在や多文化共生の環境を生かし、既卒生や外国にルーツのある生徒が、学校生活や他の生徒から社会性を学び取り、豊かな社会生活が営めるよう、教職員がサポートする。	●各生徒が、学校生活や行事を通じて、自らの生きざまを可能な限り発信し、自身を振り返り、今後どうあるべきかを考える機会とする。 ●各生徒が他の生徒の生きざまを可能な限り学び取り、自身の生き方を振り返り、どうあるべきかを考える機会とする。 ●新渡日生対象の社会科の授業枠を創設し、日本語学習と並行して社会生活に関することを学ぶ。 他の夜間中学生との交流の中で、積極的に自身の思いを発信できるよう、教職員がサポートする。					◎	近畿夜間中学校生徒会連合会主催の三大行事や一泊校外学習により、相互理解し、自己と他者が相互に「支え、支えられる」存在であることを認識・実践した。これらのことによって、自身の振り返りや今後の生き方を考えるきっかけとなった。 また、日本語指導対象者のクラスを含め、全クラスで開講した社会科や、一定の日本語習得を終え、9教科履修への橋渡しの役割を担う3番教室では、教科内容と日本語活用能力促進を強化担当者が融合させ、個々の生徒の今後の学びの継続につなげている。 本校夜間学級生の生き生きとした活動の様子を、学校ホームページ等で積極的に発信を行った。
	多文化共生の推進	諸般の事情を抱えた生徒が、多文化が共生する本校夜間学級の環境の中で、相互を認め合い大切にし、大きな視野でものごとをとらえ、さらに自尊感情を育む教育を実践する。	多文化共生の環境の中で、相互の歴史や文化を認め合い、相互を大切にすることを、授業や学校生活、行事等を通じて生徒が学んでいく。					◎	老若男女・国籍・文化を問わず、普段の授業や近畿夜間中学校生徒会連合会主催の三大行事、一泊校外学習の実施などによる交流と相互理解が進んでいると感じている。とくに連合作品展に向けて、合同作品を完成させた。

校長より(年度末)

今年度も夜間学級校内において、生徒や教職員の協力により、新型コロナウイルスの感染者を出すことなく、教育活動を継続できたことに感謝しています。今後、「誰一人取り残さない」「教育の最後のセーフティネット」として公立中学校夜間学級が果たす役割を、本校のみならず近畿・全国の夜間中学校とともに検討・実践をしていく必要があります。また、「誰一人取り残さない」ための ICT の活用実践も今後の課題です。そしてこのような教育現場が本市に設置されているということを本市教職員にオープンスクールを通じて発信しました。次年度は、学びの原点や生徒の思いなどを伝えるために、学校での取り組みをオープンスクールやHP から発信したいと考えています。